

JSBMR Newsletter No. 4

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-5-15 新大阪セントラルタワー8階

TEL: 06-4806-5656 FAX: 06-4806-5658

第23回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会期: 2005年7月21日(木)~23日(土)

会場: 大阪国際会議場

会長: 大阪市立大学大学院医学研究科

代謝内分泌病態内科学 教授 西沢良記

演題募集期間: 2005年1月11日(火)~3月31日(木)

ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/jsbmr23/>

企画:

会長講演

「骨代謝と血管障害」

特別講演1

国立病院機構 相模原病院 院長 越智隆弘先生

海外特別講演1 (演者交渉中)

[Dialytic bone disease]

海外特別講演2 (演者交渉中)

[Mechanisms and therapeutic applications of RNAi]

(仮題)

海外招待講演1

「Biochemical markers for bone and cartilage metabolism」

(仮題) Dr Garnero P

国際シンポジウム

「Bone abnormalities in hemodialysis」(仮題)

座長: 和歌山県立医科大学 秋沢忠男教授、

神戸大学 深川雅史助教授

シンポジウム1

「骨代謝から見た関節リウマチの診断と治療」

座長: 大阪大学 吉川秀樹教授、

大阪市立大学 稲葉雅章助教授

シンポジウム2

「骨疾患研究の新たな展開

動物病態モデルから臨床応用へ」

座長: 大阪大学 大藪恵一教授、

東京医科歯科大学 野田政樹教授

シンポジウム3

「ステロイド骨症」

座長: 近畿大学 宗園聡教授、

九州大学 高柳涼一教授

ミニシンポジウム

今回、第3会場を設けて、学会期間中にミニシンポジウムを行う予定となっています。

・ミニシンポジウム1

「骨代謝異常から見た血管障害」

産業医科大学 田中良哉教授

島根医科大学 杉本利嗣教授

・ミニシンポジウム2

「人工骨による骨再生“2005”ミニシンポジウム」

大阪大学 吉川秀樹教授

・ミニシンポジウム3

「OCNファミリータンパク質と骨代謝」

岡山大学 滝川正春教授

・ミニシンポジウム4

新潟大学 川島博行教授

・ミニシンポジウム5

「透析骨症の診断と治療」

東京女子医科大学 秋葉隆教授

秀和総合病院 塚本雄介先生

・ミニシンポジウム6

大阪市立大学 高岡邦夫教授

・ミニシンポジウム7

「リン代謝と骨」 大阪大学 大藪恵一教授

・ミニシンポジウム8

「エストロゲン・アゴニストに対するクロス・トーク

- エストロゲンとラロキシフェン -」

東京女子医科大学 太田博明教授

・ミニシンポジウム9

「メタボリックシンドロームと骨」

成人病診療研究所 白木正孝所長

東京大学医学部 門脇孝教授

・ミニシンポジウム 10

「画像に基づく骨疾患の評価 - 基礎から臨床まで - 」

川崎医科大学 福永仁夫教授

・ミニシンポジウム 11

「骨における腫瘍の転移と臨床」

東京医科歯科大学 野田政樹教授

Plenary session 3

Poster 展示討論

今回、座長の下にポスターの前で発表を行っていただく予定です。

一般口演 (約 120 題)

イブニングセミナー 2

ランチョンセミナー 9

2004 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2004 年 6 月 ~ 11 月末)

1) 理事会

2004 年度 第 2 回理事会議事録

日 時: 2004 年 8 月 4 日 (水) 13:00 ~ 15:00

会 場: 大阪国際会議場 8 階 801-2 会議室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、野田政樹、福永仁夫、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、遠藤直人、西沢良記、豊島良太、大園恵一(理事)、乗松尋道、山口 朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、中村利孝(QOL 委員長)、名和田新(ステロイド委員長)、松本俊夫(国際渉外委員長)、白木正孝(臨床プログラム推進委員長)、田中弘之(書記)、

会に先立ち、事務局のある(財)日本学会事務センターの大阪事務所長より、新聞等で報道された不祥事に関するお詫びと説明が述べられた。

議 事:

2004 年度第 1 回理事会議事録の承認(清野理事長)

2004 年 5 月 14 日に行われた 2004 年度第 1 回理事会の議事録案が提出され、承認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2003 年度の事業(学術集会の概要)・庶務報告(会議開催実績)、および 6 月末現在の会員数・会費納入率について報告があった。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、すでに前回の理事会において承認された 2003 年度決算報告(案)および 2004 年度予算(案)が示され、明後日の評議員会・総会に諮る予定であることが確認された。また、2004 年 6 月末時点の会計中間報告についても説明があった。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(高岡委員長)

理事会に先立って行われた委員会における審議結果が、次のように報告された。

会員増加に向けた対策について

2003 年度の退会者の傾向を調べると、臨床系の会員の退会が約 6 割を占めていることがわかった。退会者の増加を食い止めるためにも、また、新たな入会者を呼び込むためにも、学術集会における魅力的なプログラムの企画が最重要であるということで見解が一致した。そのためには、プログラム委員会の機能を充実させるとともに、継続性のある対策が必要である。よって、第 24 回骨代謝学会のプログラム委員会からは、委員の人選を会長一任ではなく、理事会で審議して決めることになった。

また、今後は入会申込書に推薦者記入欄を設け、評議員に会員推薦の協力を求めることになった(最も多くの会員を推薦した評議員は、次年度の評議員会で表彰してはどうか、という意見も出た)。

(今後の学会の改革についてを話し合うために 10 月に臨時理事会を開催し、いつもよりも時間をとって意見を出し合うことになった。)

奨励賞の選考方法について

今年度の奨励賞選考では、応募者の領域の分け方が問題となったが、それ以前に、現在の領域(基礎形態系、基礎機能系、内科臨床系、外科・歯科臨床系、疫学系)が本当に現状に即した適当な分類であるかどうかを検討する必要がある、という意見が出た。今後、理事会および学術賞・奨励賞選考委員会において審議することになった。

2) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMM の発行状況および投稿状況について報告があった。また、最新のインパクトファクター値が、昨年の 1.283 から 1.553 に上昇したことが報告された。

なお、先に行われた学会誌編集委員会における審議事項が、次のように報告された。

ページ数削減のために、新レイアウトを採用する。

投稿料の徴収について検討を進める。

査読にかかる送料を削減するためにも、オンライン査読シス

テムの導入を検討する。

3) 学術賞・奨励賞選考委員会(乗松委員長)

前回の理事会において決定した各受賞者に、6日の総会後に行われる授賞式において表彰を行う予定であることが報告された。

4) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

6月27日に行われた委員会の結果が報告された。QOL 評価質問表の2000年度版についても、Validityを確保するためには1999年度版で行ったのと同様の作業を行う必要があるため、前回の作業を担当された熊本圭吾先生(国立長寿医療センター)にアドバイザーとして加わっていただき、助言を得ながら作業を進めることになった。それにかかる費用(100万円以内)については、特別支出が承認された。

また、現在、QOL 評価質問表は、要望があれば無料で外部に提供しているが、学会の知的財産をきちんと管理するためにも、今後は(低額でもよいので)有料で提供することになった。使用料の単価については、委員会で検討して決定する。

5) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(名和田委員長)

名和田委員長より、委員会として作成した「ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン案」を、明日のシンポジウムにおいて発表する予定であることが報告された。今後、まずは英訳したものをJBMMに投稿し、その後日本語版も小冊子として出版することになった。

6) 広報委員会(遠藤理事)

先日、Newsletter No.3を抄録集に同封して配布したことが報告された。次回の発行予定は12月になるため、掲載記事がある場合は、事務局まで連絡してほしい旨が要請された。

7) 国際渉外委員会(松本委員長)

理事会に先立って行われた委員会における審議結果が、次のように報告された。

ANZBMSとの合同学会について

ANZBMSの会長より、2006年にオーストラリアでAsian-Pacific IOF Meetingが開催されるため、JSBMRとANZBMSとの間で企画していた合同シンポジウムの計画を、これに代えて進めてはどうか、という提案があった。

ASBMR councilor, committee member について

野田政樹先生が2004-2005年のcouncil memberの候補に、福本誠二先生がPublications committeeのメンバーにノミネートされた。

国際化に向けての対策について

学術集会の抄録集を作成する際に、タイトルと演者名の英文併記を徹底するとともに、英文プログラムの別刷りを作成するなど、海外からの参加を促すように工夫する。また、特にアジア・パシフィック地域からの発表者を増やすためにも、英語の一般セッションの充実を図る。

8) 臨床プログラム推進委員会(白木委員長)

「骨粗鬆症データベース」のフォーマットがほぼ決まり、順調に作業が進んでいることが報告された。また、白木委員長より、臨床プログラム推進委員会の方向性(位置づけ)を明確にしてほしいとの意見があり、それに対して、各年度のプログラム委員会と連携をとりながらも、中長期的な視野に立ったプログラム構成や、臨床分野の演題を出しやすくする環境づくりに関する提案を行ってほしい、という要請がなされた。

4. 第23回骨代謝学会準備状況について(西沢第23回会長)

2005年7月21日(木)~23日(土)に開催予定の第23回学術集会の準備状況について、西沢次期会長より説明があった。リウマチ学会との合同企画を予定しており、透析学会との連携も考えていること等が報告された。

5. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島第24回会長)

第24回学術集会は、2006年7月6日(木)~8日(土)に、東京の都市センターホールにおいて開催予定であることが報告された。第24回プログラム委員会からは、委員の数を増やすとともに、人選を理事会において決定することになった。

< 審議事項 >

1. 特別基金の設置について(清野理事長)

現在、3に分かれている特別会計(振興基金、学会運営積立金、国際交流基金)を一本化してひとつの口座にまとめ、若手研究者の教育・育成、および国際化に使用することを決定した。なお、支出する際には、必ず理事会の承認を得ることを確認した。

2. JBMMの年間購読料について(鈴木編集委員長)

編集委員会において、Springer社より申し入れられていたJBMMの年間購読料の改定について審議が行われ、その結果が理事会に上程された。現在、年間56ページで1,029万円である購読料を、同96ページで1,533万円(超過ページ代は15,000円/頁)に更改する方針が理事会においても承認され、同社と最終調整を行うことになった。

3. 第25回会長について

2007年度の第25回学術集会の会長に、高岡邦夫先生(大阪市立大学整形外科)が選出された。

4. 会則の改定(住所表記変更)について

事務局のある日本学会事務センター大阪事務所が、昨年末に事務所を移転したことに伴い、会則内の事務局所在地の住所を変更する必要があるため、明後日の総会に諮ることになった。

日 時：2004 年 10 月 29 日(金) 14:00～16:00

会 場：中外製薬 東京本社ビル 1 階 102 号室

出席者：

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、野田政樹、
米田俊之、太田博明、大園恵一(理事)、山口 朗(監事)

同席者：

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、
松本俊夫(国際渉外委員長)、田中弘之(書記)、
稲葉 雅章(第 23 回学術集會事務局)

欠席者：

滝川正春、福永仁夫、吉川秀樹、遠藤直人、西沢良記、
豊島良太(理事)、乗松尋道、(監事)、中村利孝(QOL 委員
長)、名和田新(ステロイド委員長)、白木正孝(臨床プログラム
推進委員長)

議 事：

1. 新事務局の設置について

清野理事長より、(財)日本学会事務センターの破産に伴い、事務局を(株)コネット内に移転した経緯が説明された。また、事務局より、現在、新たな会員管理システムの整備を急いでおり、会費の徴収方法についても準備中であることが報告された。なお、会費受付用の郵便口座開設のため、会則の事務局所在地の記載変更を、特例で認めることが承認された(総会に対しては事後承認として対応する)。

2. IOF Meeting 2008 について

清野理事長より、IOF(International Osteoporosis Foundation)が 2008 年にアジアでの開催を予定している Meeting の Chairman として、当学会の代表として IOF の委員をしている中村利孝先生が立候補することが承認された。なお、IOF の開催にあたっては(財)骨粗鬆症財団、日本骨粗鬆症学会とも協力しながら、3 者平等の立場で開催準備に対応することが確認された。

3. 第 23 回学術集會について

学術集會事務局の稲葉雅章先生より、10 月 22 日に開催された第 2 回プログラム委員会での審議事項が、資料に基づいて報告された。

- ・講演会場は、3会場制とする。
- ・特別講演は、臨床系はリウマチ学会の越智先生(国立相模原病院)に依頼することが承認された。基礎系については、演者選定を野田委員に依頼中である(外国人を含めて候補者との交渉をお願いする。海外より演者を招待する場合には、1,000～1,500 ドル程度の謝礼を出す)。
- ・海外特別講演 1、海外招待講演 1、国際シンポジウム 1、シンポジウム 3 についても、企画を予定している。
- ・ミニシンポジウムについては、現在、10 案を検討中である。その際、非会員の演者には、参加証を送付(参加費を免除)し、

いくらかの謝礼を渡す。

4. 会員数増加に向けた対策について

学生会員は増加しているものの、正会員数が減少しているの
で、会員数増加に向けた対策について、出席者より様々な意見
が出された(2002 年 4 月～2004 年 3 月までの 2 年間の退会
者は 257 名。それに対し、新入会者は 144 名)。

- ・学術集會のプログラムを充実させ、魅力ある会にすることが何よりも重要である。そのためには、国内・海外を問わず、関連学会との Joint-Meeting 等の企画を積極的に進めるべきである。
 - ・整形外科学会、リウマチ学会が開催する学術集會の会期中に、骨代謝学会との合同シンポジウムを企画してもらうように申し入れる(理事長より依頼の手紙を出す)。
 - ・現在の学術集會のプログラムには、教育的な視点が欠けているため、Meet the Professor 等の企画も取り入れるようにする。
 - ・活発に活動している学会と比較すると、メール等による会員へのアナウンス回数が少ない。会員にもっと学会活動に関心を持ってもらうため、通信手段についても検討する必要がある。
 - ・学生会員は勧誘しやすいため、特に演題募集時期に入会してもらうように働きかける(ただし、その後で引き止めることが重要)。
 - ・JBMM の論文賞を設けてはどうか(ただし、選考作業が大変である)。
 - ・特に整形外科分野の若手医師を対象に、教育的なプログラム(教育セミナー等)を企画してはどうか。
 - ・理事、評議員に対して、積極的な新入会員の勧誘を依頼し、推薦人数の多かった上位数名を、次年度の総会で発表してはどうか。
 - ・大学関係者のみならず、企業でも優れた研究を行っているグループがあるため、彼らにも発表しやすい機会を提供できるように検討する。
 - ・賛助会員のさらなる新規入会、および口数の増加を目指す。また、現賛助会員に対しても、口数に応じて学会の事業に参加する際の特典を設けるようにする(たとえば、学術集會時のランチョンセミナー、イブニングセミナー等の会場や時間帯の選択優先権や、講演会場で休憩時間中に広告を出せるようにする等)。
- < 会員資格例 > 10 口以上 …… プラチナ会員
5 口以上 …… ゴールド会員
3 口以上 …… シルバー会員
- ・関連学会のうち、地方会活動が活発な学会に対しては、地方会との合同シンポジウムを企画すると、実現の可能性があるのではないか(たとえば、大阪で骨代謝学会を開催するときには、他学会の近畿地方会との Joint を企画すると、地理的にも参加してもらいやすい)。

2) 評議員会

2004年8月6日(金)、大阪国際会議場において評議員会が開催され、前々日の理事会において報告・審議された事項が承認された。

3) 総会

2004年8月6日(金)、大阪国際会議場において総会が開催され、前々日の理事会および当日の評議員会において報告・審議された事項が承認された。

4) 各委員会報告

< 学会誌編集委員会 >

日時: 2004年8月4日(水) 12:00~13:00

場所: 大阪国際会議場 1010室

出席者:

(編集委員長) 鈴木不二男、

(Associate editors) 清野佳紀(理事長)、川島博行、野田政樹、(学会誌編集委員) 遠藤直人、田中弘之

欠席者:

(Associate editors) 久米川正好、中村利孝、福永仁夫、細井孝之、(名誉編集委員) 藤田拓男、小澤英浩、(学会誌編集委員) 江尻貞一、田中栄、羽毛田慈之

陪席者: (編集秘書) 五郎大由似子

I. 第12回編集委員会議事録の確認

II. 報告事項

1. 学術振興会の研究成果公開促進費
2. 発行準備状況
3. JBMMへの英文広告の掲載について
4. インパクトファクターについて
5. その他

III. 協議事項

1. Springer社に支払うJBMM購読料および学会センターに支払う事務費の改定について
2. オンライン投稿および査読システムについて(継続審議)
3. 今後の編集方針

< 第23回日本骨代謝学会プログラム委員会 >

日時: 2004年8月5日(木) 12:00~13:00

場所: 大阪国際会議場 10階 1010会議室

出席者: 西沢良記(第23回会長)、乗松尋道(第22回会長)、川島博行(第24回会長)、大園恵一、福永仁夫、吉川秀樹、太田博明、滝川正春、野田政樹、白木正孝、稲葉雅章

日時: 2004年10月22日(金)

場所: 新大阪ワシントンホテル

出席者: 西沢良記(第23回会長)、福永仁夫、吉川秀樹、白木正孝、稲葉雅章

欠席者: 乗松尋道(第22回会長)、川島博行(第24回会長)、大園恵一、太田博明、滝川正春、野田政樹、

< 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 >

日時: 2004年6月27日(日) 15:00~17:00

場所: 東京国際フォーラム 5階 G506号室

出席者: 中村利孝(委員長)、鈴木隆雄(副委員長)、太田博明、五來逸雄、白木正孝、藤原佐枝子、楊鴻生、遠藤直人(担当理事)、熊本圭吾(アドバイザー)

欠席者: 揖場和子、白田久美子、藤縄理

1. 前回の議事要旨の確認

2004年4月4日(日)に開催された前回の委員会議事要旨が確認され、承認された。

2. アドバイザー就任について

以前にJOQOL1999の解析作業を担当されていた熊本圭吾先生(国立長寿医療センター)に、当委員会のアドバイザーに就任していただき、今後の作業について助言をいただくことになった。

3. 委員の辞任について

揖場委員、白田委員より、委員辞退の申し出があり、それを承認した。委員の欠員補充については、今後の議論の展開も考慮に入れて検討することになった。

4. JOQOL1999における解析作業の確認

熊本先生より、以前にどのような方法で1999年度版の解析作業を行ったのか、具体的な説明がなされた。

5. 今後の方針について

JOQOL2000については、1999年度版と同様の妥当性の検討が必要であるとの結論に達した。このため、以下のことを確認した。

SF36の日本語版を100~200部用意する。

同意書を用意する。

プロトコールを作成する。

JOQOL2000、SF36、同意書(複写式・3枚つづり)を各500部用意する。費用については、中村委員長より理事会に申請し、100万円程度を確保するようにする。

なお、収集されたデータの論理チェック、欠落の確認については各施設が担当し、統計・解析については、鈴木委員、熊本先生にお願いすることになった。また、結果は論文化して、JBMMに掲載することを確認した。

日時: 2004年11月19日(金) 17:00~18:00

場所: パレスホテル大宮 5階「琴」の間

出席者: 中村利孝(委員長)、鈴木隆雄(副委員長)、太田博明、五來逸雄、白木正孝、藤縄理、藤原佐枝子、楊鴻生、遠藤直人(担当理事)、熊本圭吾(アドバイザー)、

1. 前回の議事要旨の確認

2004年6月27日(日)に開催された前回の委員会議事要旨が確認され、承認された。

2. 倫理委員会の結果について

遠藤理事より、10月8日に新潟大学の倫理委員会において、JOQOL2000の調査計画が承認されたことが報告された。

3. プロトコールの確認

鈴木委員より、プロトコールに関する説明があった。JOQOL1999から2000への改訂により、有意な差は生じないと考えられるが、それを証明するためにも、今回の検証作業が必要であることが説明された。検証に必要なデータは、下記の4点である。

JOQOL 2000 SF-36 (1ヵ月以内)
BMD (6ヵ月以内) レントゲン (3ヵ月以内)

4. 説明文書・同意書の確認

太田委員が作成した説明文書・同意書について確認が行われ、一部が修正された。細かな部分については、各施設によって多少の変更は可能であるため、電子データを事務局から送信後、各施設において印刷してもらうようにする。

5. 各施設の分担件数について

委員が所属する各施設において、目標とするデータ収集件数を下記のように定めた。これらを6ヵ月を目処に収集する。

【参加施設】

- ・国立医療福祉大学附属熱海病院 (五來委員)
- ・成人病診療研究所 (白木委員)
- ・兵庫医科大学 (楊委員)
- ・新潟大学 (遠藤担当理事)
- ・産業医科大学 (中村委員長)
- ・東京女子医科大学 (太田委員)

再テストが必要になるのは JOQOL のみで、2週間以上～5週間以内に行うこととし、この間に骨折や手術などを経験した患者については、データとして使えないことが確認された。なお、欠損値については、各施設において電話等で問い合わせ埋めてもよいことも確認された。

6. 調査に向けた準備について

調査に必要な印刷物などについて、確認が行われ、事務局より各施設に JOQOL を各 100 部、SF-36 を各 50 部送付することになった。ただし、SF-36 については、最近バージョンが 1.2 から 2.0 に変更されたため、各施設で過去に使用した SF-36 のバージョンと件数を事務局でとりまとめて、それから使用するバージョンを確定することになった。

7. JOQOL のドメインについて

JOQOL は、各ドメインごとに使用することに問題はないが、個別の妥当性については確立されていないことが確認された (SF-36 は、各ドメインの独立性が確立している)。

< あり方委員会 >

日 時: 2004 年 8 月 4 日 (水) 10:00 ~ 11:00
場 所: 大阪国際会議場 10 階 1010 会議室
出席者: 高岡 邦夫 (委員長)、野田 政樹、松本 俊夫、
山口 朗
欠席者: 加藤 茂明、田中 栄、中村 利孝、西沢 良記、

福本 誠二、水沼 英樹

< ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討小委員会 >

日 時: 2004 年 7 月 5 日 (月) 14:00 ~ 16:00
場 所: 千里クラブ (千里 LC ビル 20 階) 2002 号室
出席者: 名和田 新 (委員長)、佐川 昭、鈴木 康夫、宗圓 聡、
高岡 邦夫、高柳 涼一、田中 郁子、田中 弘之、
西沢 良記、藤原 佐枝子、三木 隆己、

欠席者: 福永 仁夫

< 国際渉外委員会 >

日 時: 2004 年 8 月 4 日 (水) 11:00 ~ 12:00
場 所: 大阪国際会議場 10 階 1010 会議室
出席者: 松本 俊夫 (委員長)、大園 恵一、野田 政樹、
山口 朗、米田 俊之
欠席者: 福本 誠二

< 臨床プログラム推進委員会 >

日 時: 2004 年 8 月 8 日 (金) 8:00 ~ 9:00
場 所: 大阪国際会議場 10 階 1010 会議室
出席者: 白木 正孝 (委員長)、野田 政樹、太田 博明、
中村 利孝、和田 誠基
欠席者: 川島 博行

事務局の移転について

(財)日本学会事務局センター大阪事務所の倒産に伴い、日本骨代謝学会事務局および JBMM 編集事務局が、10月より下記に移転いたしました。会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。今後の各種連絡・問い合わせ、JBMM の投稿につきましては、新事務局の方へお願い申し上げます。

【新事務局】

〒532-0011
大阪市淀川区西中島 5-5-15 新大阪セントラルタワー 8 階

日本骨代謝学会事務局 / JBMM 編集事務局
TEL: 06-4806-5656
FAX: 06-4806-5658

今後の学会予定

第 24 回日本骨代謝学会
会 期: 2006 年 7 月 6 日 (木) ~ 8 日 (土)
会 場: TFT ビル (TFT ホール)
会 長: 川島 博行 (新潟大学)

**3rd IOF ASIA-PACIFIC REGIONAL CONFERENCE ON OSTEOPOROSIS AND
16th ANNUAL MEETING OF THE ANZ BONE & MINERAL SOCIETY**

23-26 OCTOBER 2006

Sheraton Mirage Resort, Port Douglas, Australia

DRAFT PROGRAM SUMMARY

Invited Plenary Lectures

Epidemiology and Genetics

Goodbye T and Z, hello Absolute risk on the Y-axis
Epidemiology of Fractures – Known and Unknown
Genetics – What are the Questions, how to answer them
Genetics – What are the Answers
Central Control of Bone Material and Structure

Pathogenesis Modelling and Remodelling

Why do Bones Break – the Material and Structural Basis of
Bone Strength
Pathogenesis of Bone fragility – Racial and Sex Differences
Pathogenesis and Prevention of Arthritis
Growth Related Origins of Bone Disease

Cellular Symphony of Osteoclastogenesis

Osteoblast to Osteoclast, a Two Way Ticket
Immune Mechanisms in Osteoclastogenesis
Nuclear Receptor Targets in Bone

Mesenchymal/Haemopoietic Interactions in Osteoclastogenesis
Mechanical stress-induced AP-1 and Smad signalling for
osteoblastic differentiation

Therapeutics

New Drugs, New Mechanisms (Strontium Ranelate, AMG 162,
Vit K)
Anabolic Agents – Approaches to The Holy Grail for Bone
Future of new Vitamin D analogs

Other Topics

Corticosteroids and Bone – Mechanisms, Treatment
Multiple Myeloma
Cancer and Bone - a New Frontier in Drug Discovery in
Oncology
Growth – Choosing the Right Parents
FGF 23 Phosphatonin
Signaling for Cartilage Differentiation

Oral presentations from abstract submissions (n = 72)

Poster sessions – daily, all posters mounted throughout the meeting

Industry sponsored symposia

Five x 2 hour slots (Mon 6.30 pm, Tues 12 noon and 6.30 pm, Wed noon, Thurs noon)

Expert Panel Workshops

- (A) Inter and intracellular signalling - Monday
- (B) Bone Quality – what is it, can it be measured and applied clinically? - Wednesday
- (C) Treatment – why, who, when, what drug, how long? - Thursday

Weekend prior meeting

Densitometry training course for Technicians and Physicians
IOF Meeting
Osteoporosis Australia Physicians Update Clinical Update day
Paediatric Day

第9回骨カルシウム懇話会開催のお知らせ

骨カルシウム代謝領域の研究の発展、若手研究者の育成等を目的とし、この分野における最新のトピックスに関する活発な討論の場としての懇話会です。

本年の日本骨代謝学会、米国骨代謝学会で特に興味深かった演題を世話人会にて推薦しご発表いただきます。

日 時：平成 16 年 3 月 25 日(木)～26 日(金)

開催地：千里ライフサイエンスセンター 5 階 「サイエンスホール」

大阪府豊中市新千里東町 1-4-2 TEL：06-6873-2010

参加費：医師・研究者 3,000 円、企業研究者 20,000 円

お問い合わせ・参加申込先：

〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原 2-7-53 Maruta ビル 2F

株式会社コネット内 骨カルシウム懇話会事務局

TEL：06-6394-8070 FAX：06-6394-8099

E-mail：calcium@conet-cap.jp